

## 〔県民局だより〕

# 「美作地域飼料稲生産利用研修会」 開催される

美作県民局畜産第1班

美作地域畜産振興協議会（会長：津山市農林部、事務局：美作県民局農林水産事業部）は去る3月1日、津山市川崎のおかやま酪農協会議室において「美作地域飼料稲生産利用研修会」を開催しました。

これは、近年急速に作付が拡大している飼料稲について、適正な生産及び利用を進める目的で開催されたもので、当日は県内各地から約70名の参加がありました。

冒頭、協議会長である津山市農林部原田会長から、「畜産経営は依然として厳しい経営環境にあるが、今こそ資源循環型農業という原点に立ち返り、来年度から実施される戸別所得補償モデル対策等も有効に活用しながら、経営の安定につなげてほしい」と挨拶がありました。

その後、広島県立総合技術研究所畜産技術センター 新出昭吾 部長から「飼料稲で牛を飼う ～稲 WCS の調製・給与と今後の課題～」と題して基調講演が行われました。

講演では、①稲 WCS を TMR の材料として使用する場合、切断長は乾物摂取量を最大にする目的から 1.5～3.0cm 程度とする、NDF は 31～33% と通常より低く設定する、反対に NFC は高く（38～40%）設定する必要があるなど、稲の特性を考慮に入れて飼料設計する必要がある ②耐倒伏性の向上や飼料価値の向上を図ることを目的として、茎葉デンプン型稲「中国飼 198 号」が開発された。中国飼 198 号は超少穂性品種であるため重心が低く、耐倒伏性に優れている。このため、多収を狙った

多肥栽培に適している。また、子実が少ないことから、子実排せつによる養分ロス低減が期待できる一など、興味深い知見が紹介されました。

最後に、「今後の展開として、飼料価値に優れた品種や新技術の導入は重要であるが、それ以上に耕種サイドと畜産サイドが相互理解を深め、明確な地域ビジョンのもとに農業経営を行っていくことが重要である。」と締めくくられました。



研修会風景

研修会ではそのほか、稲 WCS の品質向上対策に向けた取組みや、肉用牛への稲 WCS 給与試験成績などが紹介され、会場では熱心にメモを取る姿も見られました。

### 《畜産班より》

美作地域における飼料稲の栽培は、畜産地帯であるという地域性を生かし、順調に面積が拡大してきました（表1）。

面積拡大の要因としては、おかやま酪農協を中心とした調整作業により耕種農家と畜産農家の連携、及びコントラクターの刈り取り作業がスムーズに

## 岡山畜産便り 2010.04

進んだことが挙げられます。

本年度は、新たな対策がスタートすることもあり、飼料稲の栽培希望がさらに増える可能性もあります。

このような状況を見据え、的確な需給調整が図られるためには、これまで

培った関係者相互の連携を一層密にしていくことが重要と思われれます。

飼料稲の生産・流通により、「飼料稲を作ってよかったなあ」「飼料稲を作ってもらってありがたい」という言葉があちこちで聞こえるようになったらいいなと思う今日この頃です。

表 1 稲発酵粗飼料（稲 WCS）用稲の栽培面積の推移

（単位：a）

市 町 村	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
津 山 市	1,223	1,577	2,230	3,551	5,059
美 作 市					206
真 庭 市				142	182
勝 央 町	125	124	207	96	1,115
奈 義 町	100	412	730	1,189	2,296
久 米 南 町				383	504
美 咲 町					81
美 作 局 計	1,448	2,113	3,167	5,361	9,443
岡山県計 (ha)	30.6	41.7	63.0	115.7	195.8